

現場の看護管理者のコンピテンシー測定尺度の開発

著者	別府 千恵
学位名	博士（看護学）
学位授与機関	聖路加国際大学
学位授与年度	2020
学位授与番号	32633乙第17号
URL	http://hdl.handle.net/10285/00016460



氏 名：別府 千恵
学位の種類：博士（看護学）
学位記番号：乙第17号
学位授与年月日：2021年3月10日
学位授与の要件：学位規則第4条第2項該当
論文審査委員：主査 山田 雅子（聖路加国際大学教授）
副査 奥 裕美（聖路加国際大学教授）
副査 中山 和弘（聖路加国際大学教授）
副査 井部 俊子（長野保健医療大学教授）

論文題目：現場の看護管理者のコンピテンシー測定尺度の開発

博士論文審査結果

この研究は、現場の看護管理者、即ち、病棟や訪問看護事業所で患者や家族と接し、看護現場の管理に責任と権限を与えられた者のコンピテンシーを測定する尺度を開発し、卓越した看護管理の成果との関連を特定することをめざすものである。研究者は現場の看護管理者のコンピテンシーを「予測不可能で複雑で具体的な対応が求められる現場において、能動的姿勢を保ち、看護管理者として自己研鑽を積みながら、育成した人材とともに日常業務を遂行する。さらに、様々な人々と信頼関係を構築し、ミッションとビジョンを掲げて組織的な変革を推進する。これらの意図を持った活動で患者やスタッフ、組織に卓越した成果を出す能力」と操作的に定義づけた。

尺度開発の手続きとしては、まず文献から現場の看護管理者のコンピテンシーの構成概念を明らかにし、次に看護部長の語りから、看護部長が認識する看護師長の卓越した成果と関連するコンピテンシーを示した。これらを踏まえ、看護管理者と看護研究者に意見を求めながら質問項目を抽出しカテゴリー化し、6つの構成概念（【日常業務の遂行】、【組織化と変革】、【信頼関係の構築】、【人材育成と保持】、【能動的姿勢】、【自己研鑽】）80項目の質問紙を作成した。

本研究では、80項目の質問紙を用い、病院の看護管理者939通（回収率35.6%）、有効回答数892と、訪問看護事業所看護管理者29名（回収率13.9%）、有効回答数26が得られ、天井効果・床効果から3項目を削除し、項目間合計相関（I-T相関）が0.4以下の9項目を削除し、残った68項目を用い確証的因子分析を行った。結果は、68項目6因子構造でCFI=0.818、RMSEA=0.050、ACI=7524.199となり構成概念妥当性が確認された。また併存妥当性は、本村ら（2013）の《中規模病院の看護管理者におけるコンピテンシー評価尺度》と首尾一貫感覚（Sense of Coherence；以下SOC-29）スケールで、内的一貫性をCronbach α : 0.969で確認し、6因子80項目で「全くそうである」から「全

くそうでない」までの5段階リッカート尺度による「現場の看護管理者のコンピテンシー測定尺度」が完成した。

考察では、この尺度に一番影響していた看護管理者の仕事に対する考えを取り上げ、看護管理者の自己研鑽に任せるのではなく、現場の看護管理者を教育する機会を作ることが必要であること、これまでの尺度が標準的な看護管理者のコンピテンシーを測定しているのに対し、今回の尺度は、看護管理の成果につながる標準以上のコンピテンシーを測定できることが特徴であることなどが言及された。

審査では項目の取舍選択の経緯を示すこと、尺度の特徴を明示すること、論文全体の一貫性を高めることなどが指摘され、その後修正されたことを審査員全員で確認した。現場の看護管理者を指導する立場にある研究者が、「現場」にこだわり、新規性に富み、現場の変革につながる研究と高く評価する。

以上により、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査に合格と判定する。